

山田町相撲場落成記念式典 子どもを思う力士会の支援

8月8日、山田町B & G海洋センター横の相撲場において、山田町相撲場落成記念式典が行われました。この相撲場は、震災以来本町を支援してきた力士会（横綱・白鵬翔会長）が、公益社団法人日本ユネスコ連盟とともに流失した相撲場を再建したものです。式典で白鵬会長は「被災した子どもたちをサポートしたいと思っていたので、土俵が完成しうれしく思う。この土俵で精一杯相撲をとってもらいたい」とあいさつしました。式典では記念碑の除幕のほか、子どもたちに対して日本相撲協会からまわしを贈呈。式典後には力士らの周りに子どもが集まり、記念撮影やサインをしてもらいました。



記念餅まきでは多数詰め掛けた観客らで大盛り上がり（上写真）／式典では山田第一保育所児童による虎舞が披露され、その可愛い舞は観客らを魅了（右写真）



第二期復興産業棟が完成 町内商工業の再生を期待

8月8日、高砂通り商店街（中央町・中央第1産業復興棟）前において、第二期山田町産業復興棟完成合同開所式が行われました。中小機構の支援により、第二期の産業復興棟は24棟101区画が開所。式の中で山田町商工会の阿部会長は「震災直後を思い出すと感慨深い。町民、町、商工業者で一体となってがんばりましょう」と決意を新たにしていました。第二期の完成で町内の復興産業棟は予定数の約8割が完成。これにより、被災した地域産業の再開が期待されます。

愛知県豊田市との野球交流 野球で結ばれた熱い友情

7月29日、町総合運動において、町と愛知県豊田市の野球スポ少による野球交流会が行われました。町内からは3チーム（山田野球スポ少、大沢野球スポ少、船越野球スポ少）、豊田市からは選抜1チームが出場。4試合で勝敗を競いました。豊田市の選抜チームは、同市内14チームの希望者から選ばれた31人の精鋭。特に最終試合の山田選抜チームと豊田選抜チームの戦いは1点を争う白熱した試合となりました。詰め掛けた観客らは炎天下に負けずプレーする選手らを応援。選手のみならず観客らも交流試合を楽しんでいました。試合後、選手らは電光掲示板に映された「また再会できる日を信じて明日に向かってGO」の言葉を背に、お互いの再会を誓い合いました。





今月の題字

齊藤 亮汰くん
(荒川小3年)

町のわだい

ジンバブエ音楽グループが公演 距離を超えた伝統芸能交流

8月4日、山田南小学校において、アフリカ・ジンバブエの民族音楽グループ「ジャナグル」の公演が開かれました。これは、同グループが7月から8月にかけて行う日本ツアーの一環として開催したものです。同グループ代表の高橋朋子さんは「日本とジンバブエの距離は遠いが、音楽を通じアフリカを身近に感じて欲しい」とあいさつ。本町からも八幡大神楽が披露され、児童らはジンバブエと山田の伝統芸能を満喫していました。



「やまだの花火大会」を開催 夏の夜空を照らす大輪の花

8月11日、山田漁港を会場に「やまだの花火大会」が開催されました。これはLIGHT UP NIPPON (山田町代表・阿部基 商工会青年部長) が東日本大震災で大きな被害を受けた東北沿岸13市町村を舞台に追悼と復興の願いを込め企画したものです。会場では、前日から花火に向けて子どもたちによる郷土芸能の披露やカラオケ大会を開催。出店が並び会場は親子連れなどでにぎわっていました。そして午後7時からは待ちに待った花火の打ち上げ。夏の夜空を彩る大輪の花々とその音圧に、観客らは光に頬を染めながら歓声を上げて見入っていました。同団体は来年も山田で花火を打ち上げる予定です。

盛岡・黒川さんさが仮設住宅訪問 沿岸と内陸を結ぶ架け橋に

7月22日、浜川目仮設団地において黒川参差踊連 中 (松本敏邦会長) による「さんさ交流会」が行われました。これは、同仮設団地に住む自治会長の佐々木宏作さんが、義弟の長男の結婚式で披露された黒川さんさを見て感動。「仮設団地の住民をさんさ踊りで元気づけたい」と松本会長に掛け合ったのがきっかけでした。交流会では踊り手18人がさんさ踊りを披露。住民らは最初見ただけでしたが、そのうちお囃子に誘われて踊りだす人もいました。また一緒に焼肉などをして交流。参加した150人あまりの住民は、黒川さんさ踊りメンバーらと互いの親睦を深めました。

